

国東半島峯道ロングトレイル山行報告

【山行日】2017年 11月23～26日(木～日)

【集 合】 栃木市鈴木宅 AM 4:00

【費 用】 マイカー1台 : 71,000円

【メンバー】 CL:鈴木 大西、関、藤原、渡辺

23日 晴れ、羽田空港から大分空港に行き、熊野磨崖仏から真木大堂、高山寺への峯道コースを車で辿る。

栃木市鈴木宅 5:00＝OKパーキング 6:30/6:50＝羽田空港 7:10/8:00→大分空港 10:10＝ニッポンレンタカー 10:15/10:30＝熊の磨崖仏 11:20/12:00＝真木大堂 12:10/13:10＝田染荘 13:30＝高山寺 13:50/14:10＝道の駅「くにさき」14:40/15:10＝ホテルベイグランド国東 15:20



数年前から国東半島へ行きたいと言う声があったが、磨崖仏や石仏を巡る観光と思い興味を示さなかった。ところが NHK「日本トレッキング100」の番組で、『奇跡の岩峰 峯道トレッキング』の映像を見て「是非歩きたい」と思い計画した。平成30年に六郷満山開山1300年を迎えるに当たり、去年から様々なイベントや特別公開が企画されている。六郷満山とは、九州の大分県国東半島にある寺院群の総称であり、六郷とは中央にそびえる両子山から延びる谷筋に沿って形成された六つの郷を指す。

そこに建てられた大小寺院を総称したものが六郷満山である。古来の山岳信仰と宇佐神宮を中心とする八幡信仰、さらには天台系の修験道と融合し、神仏習合の国東特有の文化が形成されたようだ。

そして峯道ロングトレイルは、登山道や古道などをつ

なぎ合わせた距離の長い自然歩道のことである。

豊後高田市の熊野磨崖仏から国東市の両子寺までの総延長137Kmのロングコースで、地域の自然や文化、そして地域の人々とのふれあいを楽しむ「歩く旅」を楽しむコースである。

我輩の家を AM5:00に出発し、羽田発8:00の JAL に乗り大分空港に着く。空港近くでレンタカーを借り、出発地点の「熊野磨崖仏」を目指す。当初は道路歩きが長いので、途中に食事処があるのではと思っていたがほとんど店など無く、コンビニで昼食を調達する。熊野磨崖仏の駐車場に車を止め、拝観料を納めて石段を登ると左手の崖に大きな不動明王が現れる。日本一雄大荘厳な磨崖仏のうたい文句通り、高さ8米の巨大な不動明王はユーモラスなお顔で親しみが持てる。さらに一段上がった崖には大日如来像が彫られており、こちらは頬張った四角い端正なお顔に理知的な深みを感じる。ここからさらに鬼の築いた石段をのぼり、熊野神社を参拝する。自然石の乱積石段は歩きにくく、傾斜も急なため結構きつかった。石段を降りて戻り磨崖仏の手前を右に進むと、陰陽師の阿部晴明が祈禱した場所を通り胎蔵寺に出る。この寺は宝くじが当たることで有名で、お参りすると金ピカのシールを賜りそのシールが仁王様や七福神に貼られ金ピカに輝いている。駐車場まで戻り、



ここから高山寺まで11.8Kmを歩いて回る予定だったが、風が強く寒いので車で移動することにした。次の真木大堂までは3.3Kmあり、歩けば小一時間掛かるが車では5分で着く。駐車場に車を止め、拝観券を購入し参拝する。



真木王堂は六郷満山六十五ヶ寺の内、三十六坊を有した最大の寺院「馬城山伝乗寺」のことである。

約七百年前に火災の為焼失し、現存する九体の仏像のみ難を逃れ今日に至っている。現在は収蔵庫に保管され、国の重要文化財に指定されている。仏像を見学した後は旧本堂を参拝し、奥の石段を登ると展望台に行く。歩かなかったのが石段を登り、山道を登って展望所まで行く。展望所からの景色は素晴らしく、明日から歩く国東の山々が一望の下連なっている。ここから車で移動し田染荘へ行くが、レストハウスは閉まっており皆車から降りようとしな

い。「田染荘」は1200年の歴史を持つ荘園で、地域の方達の協力のお蔭で残せた貴重な遺産である。平成25年5月に国東半島を含む一帯が、世界農業遺産に認定され往時の田園風景がそのまま残されている。ここから本日のゴール地点の高山寺まで車で移動する。山道を登って行くと大きな駐車場があり、ここからの展望はすばらしい。駐車場に車を止め細い道を進むと立派な山門があり、良く手入れされた庭の向こうに本堂が建っている。643mの西叡山山頂にある高山寺は比叡山無動寺の別院となり、六郷満山65ヶ寺を統括する寺であったらしい。

七堂伽藍四十五坊で栄華を極めたとされるが、現在は本堂のみのこじんまりとした寺院だ。本堂に上がりお参りをしてから駐車場に戻り、国東半島の山並みを楽しんだ。ホテルに戻る途中道の駅「くにさき」に寄り、お土産にするものを物色し3日目に購入することにする。ホテルベイグランド国東にチェックインし、案内されるとオーシャンビューの部屋に皆さん大満足。温泉も広くて夕食も美味しく、これで山小屋よりも千円以上リーズナブルなんて信じられないと喜んでいた。



24日 小雨のち晴れ 岩戸寺から文殊仙寺までの峯道コースを歩く。

ホテル 8:00＝岩戸寺 9:00/10:00＝大聖寺 10:10/10:30～五輪塔群 10:40～長慶寺 11:00～山口池 11:20～文殊仙寺 13:30/14:10＝宇佐神宮 15:00/16:00＝ホテル 17:00

今日は古刹岩戸寺から文殊仙寺まで17.6Kmのロングコースを歩き、宇佐神宮まで足を延ばすことに



する。朝6:00から風呂に入り、出かける準備を整える。7:10から朝食を食べるが、炊き立てのご飯に焼き魚や煮物が並び、ベーコンエッグは焼きながら熱々をいただく。8時ジャストにホテルを出発し、途中のセブンイレブンに寄り昼食を購入する。ホテルから1時間で岩戸寺駐車場に着き、車を止めて参道を歩いて行く。参道入り口には一対の仁王像が立ち、この仁王像は室町中期の作で我が国最古のものらしい。本堂脇に奥ノ院へ上がる参道が続き、歴史を感じる石段を登って行くと講堂が立ち、さらにその奥に薬師堂、六所権現が佇んでいる。石段は風化し石垣は苔

むして歴史を感じられる参道を上がり、最奥の六所権現を参拝する。そこから石段を戻り薬師堂をお参

りし、その脇の岩屋に祀られた小安観音と明賢洞窟をお参りする。参道を戻ると茅葺屋根の講堂にモミジの紅葉が映え、絵葉書のように美しかった。本堂に参拝すると住職から「どうぞ中に上がって見てください」と勧められ、本堂に上がって陳列された「修正鬼会」のお面や陳列品を拝見した。ここから歩く予定だったが天気がまいちで、冬型の気圧配置による影響で雨粒や雪が飛んでくる。とりあえず様子を見ようと、次の大聖院まで車で移動する。道路わきの空き地に車を止め、参道を登り大聖寺をお参りする。戻って道路反対側の畦道を歩き、旧大聖寺跡にある五輪塔群を見学する。田んぼの中の四角い場所に宝塔印塔や五輪塔が200個ほど置かれていて、旧大聖寺の面影は何も残っていなかった。車まで戻り、ここからは健脚組とシルバー組に分かれて行動する。シルバー組は車で文殊仙寺まで行き、車を置いて山口池まで歩き健脚組は、



ここから歩いて長慶寺経由で山口池まで行く。山際の旧道を歩いて行くが、あまり歩く人は無く道路が荒れていた。20分程で長慶寺に着き、トイレを借りて休憩しミカンをいただく。長慶寺から15分程で山口池に着き、シルバー組に連絡するがまだ文殊仙寺の駐車場に着いたばかりとの返事。道を教えたのにナビを頼り、かなり遠回りしたようだ。仕方が無く、また別行動をとり健脚組は予定のコースを進む。

池の堰堤を渡り県道544号線を西に進む。ところが水谷峠手前から山道に入る分岐が解らず、そのまま舗装道を進んでしまい、SさんとFさんから大ブ



ーイング。舗装道を5Km 余分に歩き、ようやく文殊仙寺に着いた。シルバー組の二人に電話しようやく合流出来、5人で文殊仙寺を参拝する。文殊仙寺は国東半島六郷満山随一の古刹として648年、役行者によって開基されたと伝えられている。六郷満山1300年祭に当たり、「本尊文殊菩薩」と「鬼大師」の秘仏が同時特別御開帳されており、住職の案内で拝観させていただいた。住職のお話では、六郷満山は全国八幡総本宮である宇佐神宮の御神体、「八幡大神」の化身と言われる仁聞菩薩によって開かれ、国東半島に今日まで継承される山岳信仰を中心にした神仏習合文化を指すそうだ。そして国東半島の中には、約7万体の御仏が祀られているそうである。ここからは、六郷満山の根源である宇佐神宮に向かうことにした。宇佐市に入り日本一の仁王像を過ぎると、まもなく宇佐神宮に着く。宇佐神宮は全国に4万社あまりある八幡神社の総本宮であり、八幡大神(応神天皇)を御祭神に725年に造立された由緒ある神社。ものすごく広い駐車場に驚いたが、境内はもっと広く国宝の本殿(上宮)をはじめ下宮、若宮神社、北辰神社などあまたの摂社や末社が祀られている。国宝の本殿(上宮)はひととき荘厳で、これほど立派な本殿を造立する財力は何処からくるのか不思議に思える。下宮も本殿に比べると規模が劣るが、なかなか立派で見応えがあった。下宮から帰り道を進むと近道で、参道商店街に出る。お店に寄ってケーキやクッキーを買い、ホテルに向かった。



夕食を30分遅くしてもらい、ゆっくり温泉に浸かり歩いた疲れを癒す。夕食は前日と違ったメニューで用意され、ワインを楽しみながら美味しくいただいた。

25日 晴れ 前田登山口から中山仙境を縦走し、六所宮・実相院・霊仙寺を廻り両子寺に参拝する。

ホテル 8:00＝夷耶馬農村公園P9:05/9:20→前田登山口 9:30→登山道合流点 10:30→無明橋 11:00→高城 11:40→11番札所 11:50/12:20→隠洞穴 12:40→六所宮 13:00→実相院→霊仙寺→夷耶馬農村公園P13:30/13:40＝両子寺 14:10/15:00＝道の駅「くにさき」15:30/15:50＝ホテル 16:00

今日は天気が一番良く風も穏やかな予報なので歩くコースを変更し、豊後高田コースの核心部「中山仙境」を縦走することにした。当初は真玉温泉から猪群山を登って中山仙境へ行く予定だったが、皆さ



ん山道を歩きたいようなので中山仙境を全部歩くコースにした。7時から朝食を済ませ、準備をして予定通り8時にホテルを出発する。途中のセブンイレブンで昼食を購入し、夷耶馬農村公園に向かう。

農村公園と書いてあるので、農産物直売所や食事処があると思っていたら、トイレと休憩舎だけで人も見かけなかった。トイレを済ませ準備をしたら、ストレッチを行って出発する。舗装道を左に進み、10分程歩くと前田登山口に着く。道標に従って尾根道を登ると、いきなり道の片側が切れたスリリングな尾根歩きになる。しかしステップが刻まれ、擬木の階段が設置され登山道は良

く整備されている。少し登ると弘法大師像と案内札があり、右に少し登るとそれらしき仏像が祀られていた。後ろから男性3人が追いついてきて、「道はこっちですよ」と言われ「いや弘法大師像を見に行きました」と話した。どうやら役場の職員らしくカメラと筆記用具を持って、登山コースを点検しているようだ。登山道にはいくつか短い枝道があり、その入り口には○番札所の案内があり展望の良い岩峰に石仏が祀られている。コース上には1番札所から12番札所までもうけられ、それぞれ素朴な石仏が祀られているのでそれを見るのも楽しめる。2番札所からの眺望が素晴らしく、皆さんが「ウワ～～凄い、こんな景色初めてだね」と興奮気味。その先の3番札所はさらに景色が良く2番札所が見下ろせ、徳ちゃんが「ヤッホ～～」と2番札所に居る役場の3人に声を掛けていた。こちら辺から鎖で登る岩場が出て来て、4番札所から下ると小野迫や坊中へ下る分岐が有るが直進する。分岐から先はさらに険しい岩稜の登りになり、クサリやロープを頼りに攀じ登る。7番札所の先が有名な無明橋で、崖と崖の間に掛けられた幅40cmの石橋を渡って行く。我輩が渡った先でカメラを構え撮影するが、皆さん笑顔でとても楽しそうに渡る。橋の真ん中で止まり、ポーズをとって余裕の表情で微笑んでいる。無明橋から先もクサリ場の連続で、8番・9番の札所を乗り切ると10番札所は本日の最高点高城と呼ばれるピークに着く。ここからの展望はまさに絶景で、岩峰群と岩壁に紅葉が織りなす風景はとても素晴らしい。山頂には三角点と大きな石塔が置かれ、登って来る際に遠くからも見ることが出来た。ここからヤセ尾根を歩いて行くが、両側が切れ落ち高度感抜群でとても怖かった。ヤセ尾



な無明橋で、崖と崖の間に掛けられた幅40cmの石橋を渡って行く。我輩が渡った先でカメラを構え撮影するが、皆さん笑顔でとても楽しそうに渡る。橋の真ん中で止まり、ポーズをとって余裕の表情で微笑んでいる。無明橋から先もクサリ場の連続で、8番・9番の札所を乗り切ると10番札所は本日の最高点高城と呼ばれるピークに着く。ここからの展望はまさに絶景で、岩峰群と岩壁に紅葉が織りなす風景はとても素晴らしい。山頂には三角点と大きな石塔が置かれ、登って来る際に遠くからも見ることが出来た。ここからヤセ尾根を歩いて行くが、両側が切れ落ち高度感抜群でとても怖かった。ヤセ尾

根の先のピークが11番札所で、景色が良いのでランチタイムとする。

展望が良く日当たりも良いので、昼食には絶好の場所だ。風も無く穏やかな日中で暖かく、コンビニで買ったタマゴサンドが最高に美味しいと感じられた。12番札所の先で折り返すように尾根を進み、ここからは岩壁を幅20cmの道でトラバースするが、下は断崖絶壁でスリル満点の登山道。横に張られた鎖を頼りに、一步一步慎重に渡って行く。トラバース道から少し下ると、隠洞穴(かくれうと)と呼ばれる広い岩穴に出て、そこからは岩の間を下り杉林の下山路を15分ほど歩くと中山仙境下山口に着く。

下山口から左に舗装道を歩き、橋を渡った所に六所神社・実相院・霊仙寺と神社と寺が3つ並んでいる。

六所神社は普通の神社と思ったら、神社の裏に回ると崖下に本殿があり彫刻が素晴らしかった。道に出て二つ隣の霊仙寺に寄ると、庭のけいとうがとても綺麗だった。また高さ4.87mの九州一大きな地蔵尊があり、これは安政7年に作られたもので一つの石から出来ているそう。こんな小さな集落に立派な神社やお寺が3つも有、どのように維持しているのか不思議に思った。農村公園駐車場に戻り、靴を履き替えトイレを済ませて両子寺へ向かう。両子寺の駐車場に着くと、車や人で賑わっており国東半島で初めて見る光景であった。両子寺は国東半島のほぼ中心に位置し、718年に仁聞菩薩によって開創された。六郷満山の中山本寺で、六郷満山の総寺院として満山を統括する立場にあった名刹である。カエデの紅葉が見頃で、多くの観光客で溢れていた。受付で拝観券を



購入し、護摩堂(本堂)から参拝する。靴を脱いで護摩堂に上がると、住職が護摩堂に飾られた仏様の説明をされていた。前の回が終わった後椅子に座り、住職に「我々にもお話していただけますか？」と聞くと快諾し説明をしていただく。終わってから外に出て、稲荷堂、大黒天堂と参拝し最後に書院の特別拝観をさせてもらう。駐車場に戻ると、案内の方が「仁王門は是非見たほうがいいよ」というので、参道を下って行く。参道の入り口に立派な仁王像が立ち、沢山の人が記念写真を撮っていた。我々も記念写真を撮り、参道を戻り駐車場に着く。ここからホテルに戻るが、途中道の駅「くにさき」に寄り、初日に目星を付けたお土産を買ってホテルに戻った。温泉に浸かり疲れを取ってから、最後の晚餐が始まった。今日は生ビールで喉を潤し、冷酒でしめる。今日の料理も前日と重ならないよう配慮され、気配りに感謝しながら美味しくいただいた。明日は天気が良くない予報なので、「明日は観光にします」と言う「ヤッター」と皆喜んでいた。



26日 曇り 耶馬溪『一目八景』から『青の洞門』を観光し、中津城を見学して帰路につく。

ホテル 8:30＝一目八景 9:30/10:00＝青の洞門

10:20/10:30＝中津城 11:10/11:50＝ニッポンレンタカー 13:00＝大分空港 13:10/14:40→羽田空港

16:25/16:50＝OK パーキング 17:05＝鈴木宅 19:30

アツと言う間に最終日になってしまった。今日は朝食をゆっくりいただき、出発を30分遅らせてホテルを出た。今日の行動時間は半日しかないので、片道1時間で移動できる場所を計画した。大分空港道路から日出バイパス、東九州自動車道を進み安心院 IC で降りて耶馬溪を目指す。県道27号線に入ると



山道となり、紅葉が丁度見頃で美しい。道なりに走り県道28号のT字路を左折し、「一目八景」の茶店の駐車場に車を止め展望台まで歩く。土産店から蕎麦饅頭を蒸かす香りがして、腹の虫が騒いでいる。皆がトイレに行く間に蕎麦饅頭をゲットし、戻ってきたら皆と一緒に美味しくいただいた。一目八景は耶馬溪の中心にある絶景スポットで、秋の紅葉シーズンには全国から多くの観光客が押し寄せる。360度見渡せる展望台からは、烏帽子岩や仙人岩など八つの岩嶺群を一望できることから「一目八景」の名が付いたようだ。岩嶺群は見事だが紅葉は少し見頃を過ぎ、天気も曇

り空の為それほど感動は得られなかった。ここから西に向かい青の洞門に向かう。青の洞門は江戸時代の僧・禅海が通行人の安全の為、石工たちと共に約30年かけてノミと槌だけで掘った手掘りのトンネルである。菊池寛の小説「恩讐の彼方に」のモチーフとなり一躍有名になった。駐車場に車を止め川沿いの遊歩道を歩くと、景勝・競秀峰を望め青の洞門まで歩いて行くことが出来る。時間が無いので禅海和尚の像の前で記念写真を撮り車に戻る。ここから国道212号線を通り、中津市に向かい中津城を見学することにする。中津城は黒田官兵衛が豊臣秀吉の命により九州を平定し、中津16万石を拝領して1588年に築いた城。天守閣は昭和39年の再建だが、石垣には官兵衛時代の名残があり、近世城郭では九州最古の城である。五層の天守閣は歴史資料館になっており、各階の展示室を見学しながら最上階の展望室まで上がれる。中津市には福沢諭吉記念館や南部まちなみ交流館等見どころが沢山あるが、今日は時間が無いので見学したら車に戻り大分空港を目指す。中津日田道路から中津IGに向かい、東九州自動車道から日出バイパス、大分空港道路を通りニッポンレンタカーの大分空港営業所へ着く。手続きを済ませ、ニッポンレンタカーの車で空港へ送ってもらう。空港で手荷物を預け、昼食を食べてからお土産を買う。帰りの飛行機は予定より早く空港に着き、ラッキーと思ったら滑走路で20分待機させられ予定よりも遅くなってしまった。パーキングから首都高、東北道は順調に走り、羽生PAで夕食を食べ無事岩舟支所に帰着した。



4日間天気が崩れずホテルもリーズナブルで満足でき、5人で和気あいあいで歩きとても楽しい国東半島の旅が出来た。